

日本語を生かした将来キャリアの希望

名前: アリ・ムハammad・ロシャド

学生番号: 2509750

大学名: インドネシア教育大学

初めて日本語を学ぼうという気持ちが芽生えたのは、COVID-19のウイルスが流行した時です。それは中学生の時です。そのウイルスの影響で外出が制限され、自宅で過ごす時間が増えました。

もちろん、大変なこともあります。今まで日本語を勉強してきたことは、本当によかったと思っています。私にとって、日本語はただの言語ではありません。日本語は、私の未来を切り開く大切な鍵だと思っています。日本語を通して、自分の未来が少しずつ見えてきました。

高校生の時、日本語能力試験や大会にも何度も参加しています。大会では、勝ったり負けたりしながらも、多くのことを学びました。日本語能力試験では、今のところN3を持っています。これからも日本語の最高レベルを目指していきます。

大会や能力試験を練習する時は、一番難しいことはやはり学習の継続です。時には、もし長い時間に勉強していないのは日本語力が少しずつなくなってしまうです。でも、毎日勉強を長い時間に行っているのもよくないと思います。それを解決するには、自分の方法がもう見つけました。勉強は、毎日長い時間をする必要はなく、大切なのは無理をせず、続けることだと思います。また、時々休憩を取りながら勉強することも大切です。日本語を学ぶことで、たくさんの知識や経験を得ることができました。

将来は、日本語を生かして通訳や翻訳の仕事をしたり、日本語教師になったりすることにも興味があります。また、料理にも興味があるので、いつか日本で料理人として働き、自分の店を開いてインドネシア料理を提供することも夢の一つです。そのために、まず日本に留学して、実際に日本で生活しながら日本語を使う経験をしたいです。N1に合格することや、会話力を向上させることを目標にして、大学での勉強を大切にしながら、これからも日本語の勉強を続けていきたいと思っています。

これらの夢を叶えるために、これからも日本語力を高め、日本語を生かして日本とインドネシアの人々をつなぐ仕事がしたいです。そして、自分が学んだ日本語の知識や経験を、他の人々のためにも役立てられる人になりたいです。

これからも大学で日本語の勉強を続け、N1合格と会話力の向上を目指します。日本に留学し、実際の生活を通して日本語や文化を学びたいです。将来は通訳、翻訳、日本語教師など、日本語を生かした仕事に挑戦したいです。また、料理人として働き、いつか自分の店でインドネシア料理を日本の人々に紹介することも夢です。日本語を通して人と人をつなぎ、自分の知識や経験を誰かの役に立てられる人になりたいと思います。